

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 24 日現在

機関番号：32704

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23520406

研究課題名(和文)フローベール『サラムボー』におけるファム・ファタル神話研究

研究課題名(英文)Genetique study of Femme Fatale in Flaubert's Salamambo

研究代表者

大鐘 敦子(OGANE, ATSUKO)

関東学院大学・法学部・教授

研究者番号：50350541

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円、(間接経費) 1,140,000円

研究成果の概要(和文)：フローベールの長編歴史小説『サラムボー』は、19世紀後半に注目された「ファム・ファタル(宿命の女)」という概念に多大な影響を与えたと言われている。本研究では、従来、統一した転記がなされず、分類も未整理だった『サラムボー』のプランとシナリオの全自筆草稿を、現段階で最も厳密な基準での転記方法で判読・転写するとともに分類整理し、これら初期草稿にみられるファム・ファタル像の萌芽と決定稿までの形成過程をより精密に実証的に捉え直して、新プレイアッド校訂批評版など最新の資料を用い、19世紀ファム・ファタル神話形成の起源の一つとして新たに位置づけた。

研究成果の概要(英文)：Flaubert's long historical novel Salamambo is considered to have influenced considerably the concept of the "Femme fatale" which received nationwide attention in the nineteenth century. We proposed to analyze the origin and the process of the formation of this concept in "l'avant-texte" (the plans, scenarios and drafts) in this novel, and realized the transcript and the classification totally for these hundred manuscripts which haven't been totalized to this day. The purpose was to reexamine synthetically the process of the creating of this concept and to recognize this novel as one of the greatest in the mythological formation of the "Femme fatale" in the nineteenth century.

研究分野：人文科学

科研費の分科・細目：文学・ヨーロッパ文学(英文学を除く)

キーワード：フローベール サラムボー ファム・ファタル 生成研究

1. 研究開始当初の背景

フローベールの歴史長編小説『サラムボー』*Salammô*(1862)は、ファム・ファタル(宿命の女)神話の原点の一つとして、重要な文学史的意義を持つにもかかわらず、従来、ジェンダー論の中で言及されるにとどまり、総合的な実証研究は等閑視されてきた。マリオ・プラーツの歴史的大著『ロマンティック・アゴニー 肉体と死と悪魔』(*La chair, la mort et le diable dans la littérature du 19e siècle*, Edition Denoël, 1930)の中で「ファム・ファタル」の重要な作品の一つとして指摘されているのが、『サラムボー』である。この小説では、作家が渉猟した古代カルタゴの神話学や19世紀フランスの宗教学の資料から合成したとみられる「太陽神話と月の神話」や「生贄の儀式」が物語の骨格となり、ファム・ファタル神話を生みだしている。近年の『サラムボー』作品研究では、イルディコ・ロランスキーが初期作品から本作品までこの神話的想像力構築の問題を「太陽神話」から論じ(Ildikó Lörinszky, *L'Orient de Flaubert*, L'Harmattan, 2002)、アニエス・ブヴィエはエルネスト・ルナンやアルフレッド・モリー、クロイツァーの影響を指摘した。しかし、これらの神話学や宗教学とファム・ファタル論との間には乖離があり、フローベールがフランス文学史上初めて描いたといわれる最晩年の「サロメのダンス」のファム・ファタル性との相関関係やサラムボー像の実証的なファム・ファタル像の研究はなされていない。本研究では、ファム・ファタル性の問題を『ヘロディアス』におけるファム・ファタル研究の成果を基盤として、草稿を通じて作家の内的生成として近代的女性像の萌芽という観点から解明する。

2. 研究の目的

フランスの国立科学研究所(CNRS-ITEM)を中心にフローベールの草稿は様々な転記方法が試みられてきたが、近年では草稿の形態にもっとも近い転記 *édition mimétique* が主流となっている。09年にはフランス国立図書館の電子図書館 Gallica に『サラムボー』の草稿画像がアップされ、『サラムボー』の作業手帳のひとつ、『カルタゴ紀行』(*Carnet de voyage à Cathage*)も1999年に出版された。2010年3月には、フローベールの全草稿の電子化プロジェクトがフランス国立図書館で発表され、2011年には世界的校訂版プレイアッド全集に本作品が上梓される予定であった。2012年の『サラムボー』出版150周年を目前に、従来の神話学的議論を統括しつつ、ファム・ファタル論の流れも視野に入れ、最新の文献と草稿研究を用いて新しい側面からのサラムボーのファム・ファタル像分析を展開するのが目的である。

3. 研究の方法

初年度はフランス国立図書館草稿室およびパリ市立歴史図書館において、5500枚近くに上る膨大な『サラムボー』の草稿の中からファム・ファタルに関する草稿を絞り解読を開始するとともに、創作のための『カルタゴ紀行』の調査を実施した。また、『サラムボー』の下書き草稿710枚の転記・解読を遂行したパリ国立科学研究所フローベール研究所所員ジュヌヴィエヌ・モンドン女史の博士論文やヒアリングおよび他の文献の調査を実施した。

また、『サラムボー』の新校訂批評版(プレイアッド版)の共同校訂者二名にもヒアリングを実施した。

4. 研究成果

研究期間を通じて、フランス国立図書館草稿室、パリ市立歴史図書館および、ルーアン市立図書館草稿室で転記作業を実施した。

折しも、10年来待望の新校訂批評版の『サラムボー』(ガリマール社プレイアッド叢書)の校訂作業がフランスで進められていたので、本研究を深めるために、その共同校訂者の一人、ジゼル・セジャンジェール女史を招聘し、フローベールの初期作品から『サラムボー』までのファム・ファタルの流れを総括し、神秘主義とエロティスムの間に介在した当時の精神医学の存在について講演してもらい、ファム・ファタルに関する有意義な討議を実施した(*Salammô et les mythes. Une figure de femme fatale- entre mysticisme et érotisme*, 関東学院大学小田原キャンパス)。

『サラムボー』の5000枚相当の草稿中、プランとシナリオは全貌が統一して転記・判読されておらず、ファム・ファタル像に関する記述を認めたことからそれらの転記・解読を進めた。

次年度は、『サラムボー』出版150周年記念と合わせて、本研究を深化させるため、プレイアッド校訂批評版の共同校訂者の一人で、草稿研究の世界的な権威である、フローベール研究所長イヴァン・ルクレール教授を招聘し、二度にわたって本課題に関連するテーマについて、最新情報に基づく講演を依頼し、討論および研究集会を展開した。(「*Salammô : femme fatale et roman de la fatalité*」於：関東学院大学関内メディアセンター)・(「*Salammô ou Carthage, entre histoire et fiction*」於：同小田原キャンパス)。また、『サラムボー』出版記念日に合わせたルーアン市立図書館展示会においては、同図書館に保存された草稿の転記資料を提供し、その資料に関する論文をフローベール研究所サイトで発表した。

最終年度には、二年にわたり招聘した『サラムボー』共同校訂批評者たちの講演原稿お

よび申請者の論文を科研費報告書として出版した。

その間、リヨン ENS およびフランス国立科学研究所 (CNRS) による 3500 枚にのぼるフローベール『ブヴァールとペキュシェ第二巻資料集』の国際転記・校訂プロジェクトの一員として、『サラムボー』研究と同時代の宗教的資料の関連から、宗教部門の転記を実施した。2012 年 3 月リヨン ENS における国際会議で 19 世紀マリア信仰ブームと社会主義に関して発表した。

また、ルーアン大学フローベール研究所による『ブヴァールとペキュシェ』(小説部門)国際転記プロジェクトの一員としても転記作業に参加し、2013 年 3 月の国際会議で宗教の章を含む小説後半と「第二巻資料集」との関連について発表した。これらの国際転記プロジェクトでの転記・解読の経験を活かし、科研費の個人プロジェクトの最終年度には、より厳密な転記基準を設けることとし、最終的に、『サラムボー』の全プランおよびシナリオ 100 枚相当を初めて最新の transcription mimétique の方法で統一して転記するとともに、分類整理を実施して 2014 年 2 月にルーアン大学フローベール研究所サイトでプレ出版して公開した。

5 . 主な発表論文等

[雑誌論文](計 9 件)

Atsuko Ogane, *Plans et scénarios de Salammô, classement et transcriptions*, 114p. Site Flaubert. 査読有(Transcription 114p. Présentation 24p.), 2014, http://flaubert.univ-rouen.fr/ressources/sal_scenarios_presentation.pdf, Centre CEREDI.

大鐘 敦子, 「フローベール『サラムボー』のプランとシナリオ(資料)」, 『関東学院教養論集』, 査読無, 第 24 号, 2014, pp. 79-130

Atsuko Ogane, « Réécriture du Livre de Judith dans *Salammô* », *Plaisance*, 査読有, n°30, « Flaubert : le Passé, le Présent, le Mythe », sous la direction de Roma Maria Palermo Di Stefano, en Italie, 2013, pp. 55-65

Atsuko Ogane, « Le pèlerinage à la Délivrande, une vision ironique du catholicisme », *Revue Flaubert*, 査読有, n°13, 2013, « Les dossiers documentaires de *Bouvard et Pécuchet* » : l'édition numérique du creuset flaubertien, Actes du colloque de Lyon, 7-9 mars 2012, Numéro dirigé par Stéphanie Dord-Crouslé, Centre Flaubert, CÉRÉDI.

<http://flaubert.univ-rouen.fr/revue/article.php?id=151>

大鐘 敦子, 『サラムボー』—シナリオにおける主人公の名の変遷, 『関東学院教養論集』, 査読無, 2013, 第 23 号, pp. 1-21

Atsuko Ogane, « Hérodias aux lunettes (Flinck Govaert) », *Oscholars*, numéro spécial, « Salomé : dévoilements du mythe », 査読有, 2012, <http://oscholars-oscholars.com/special-issues/contents/ogane/>

Atsuko Ogane, « Un plan de *Salammô* ou un sommaire de l'Histoire de Polybe ? », 2012, site du Centre Flaubert, rubrique, « Études critiques », 査読有. Transcription des folios conservés à la Bibliothèque municipale de Rouen. (Ms g322 Ar_Sommaire de l'Histoire de Polybe ; Ms g322 Av_Plan général ; Ms g322 Ar et v_Scénario général ; Ms g322 C_Notes diverses) http://flaubert.univ-rouen.fr/ressources/sal_polybe_ogane_2012.php

大鐘 敦子, フローベール『サラムボー』—初期草稿におけるファム・ファタル像の形成, 『関東学院教養論集』, 査読無, 第 22 号, 2012, pp. 1-25

Atsuko Ogane, « Parcours du mythe d'Hérodias : *Ysegrimus*, *Atta Troll*, *Trois contes*, *Salomé* », *Romantisme*, 査読有, n°154, 4e trimestre, « Le Vivant », 2011, pp. 149-160

[学会発表](計 2 件)

Atsuko Ogane, « Intertexte et genèse de la « conférence » finale – la Profession de foi du Vicaire savoyard », Colloque *Bouvard et Pécuchet*, 7, 8 et 9 mars, 2013, Centre Flaubert, Université de Rouen CÉRÉDI et l'Association des amis de Flaubert et de Maupassant

Atsuko Ogane, « Le pèlerinage à la Délivrande, une vision ironique du catholicisme », Session 11_Religion, Colloque de fin de programme ANR_Projet « Les dossiers de Bouvard et Pécuchet », *Bouvard et Pécuchet* : les seconds volumes possibles, Documentation, circulations, édition, 7,8 et 9 mars 2012, ENS de Lyon, CNRS-ITEM

〔図書〕(計1件)

Atsuko Ogane (ed), *Salammbô, Figure(s) de la fatalité* – pour le cent cinquantième de *Salammbô* (1862), textes réunis par Atsuko Ogane, « Recherches sur le mythe de la femme fatale dans *Salammbô* de Flaubert », JSPS KAKENHI Grant Number 23520406 (科研費講演会報告書出版), 2013,103p.

6 . 研究組織

(1)研究代表者

大鐘 敦子(OGANE, Atsuko)

関東学院大学・法学部・教授

研究者番号：5 0 3 5 0 5 4 1